

チーム星峯西小学校で取り組む
「教育の情報化」
「格差」を解消し、学校全体で推進する
GIGAスクール3年目の実践
タブレット端末を活用した全教員による
全学級での授業実践を目指して

【日程】

- | | | | |
|---|---------------|---------------|-----|
| 1 | 授業参観（45分） | （ 9：40～10：25） | 各教室 |
| 2 | 研究内容等の説明（50分） | （10：25～11：15） | 校長室 |
| 3 | 質疑応答（15分） | （11：15～11：30） | 校長室 |

令和6年1月12日（金）
鹿児島市立星峯西小学校
校長 谷口源太郎

学校のプロフィール

本校の歴史，児童数，学級数，研究発表等

創立 43年目 児童数 547名
教職員数 33名 学級数 24学級

R3.3月研究校でも先進校でもない公立小学校
R3.4月「教育の情報化」を本格的に推進
R3.9月オンライン授業の試行的実践開始～
R3.11月福岡県八女市教委視察受入
R4.3月小学館「みんなの教育技術web版」に
取組が3回連載
R4.8月かごしま未来の学びをつくる会発表
R4.8月県学力向上フォーラム発表
R4.10月かごしま教育の情報化フォーラム発表
R5.1月佐賀県、長崎県研究指定校視察受入
R5.2月eスクールステップアップ全国大会発表
R5.3月「実践記録集(2021・2022)」発行
R5.8月県総合教育センター「なつ研」発表
R5.11月熊本県阿蘇郡南小国町教委視察受入
R5.12月「実践事例集(2023)」発行

※2年9月間の取組の成果と課題とは？

実践事例 説明内容

1 本校の実践研究の経緯及び概要

- ・学校経営方針の概要
- ・「実践記録集(2021・2022)」【R5.3月発行】
- ・「実践事例集(2023)」【R5.12月発行】

2 「格差」を解消し、学校全体に「教育の情報化」を浸透させるためのポイント

- ・タブレット端末の未経験者や初心者への指導手順等

3 主な実践事例

- ・学習者用デジタル教科書を活用した実践事例(英語科)
- ・家庭学習と繋いだ反転学習による実践事例(社会科)
- ・単元内自由指導学習による実践事例(総合的な学習)

学校経営方針の概要 (R3.4月～現在)

◆学校が抱える重点課題は、次の3点だととらえています。

①学力向上

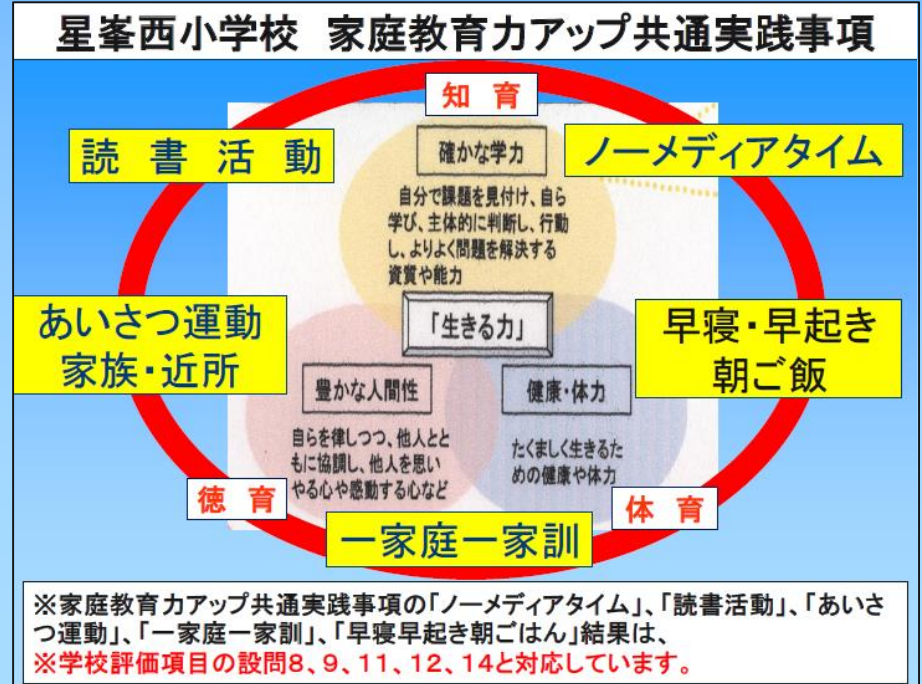
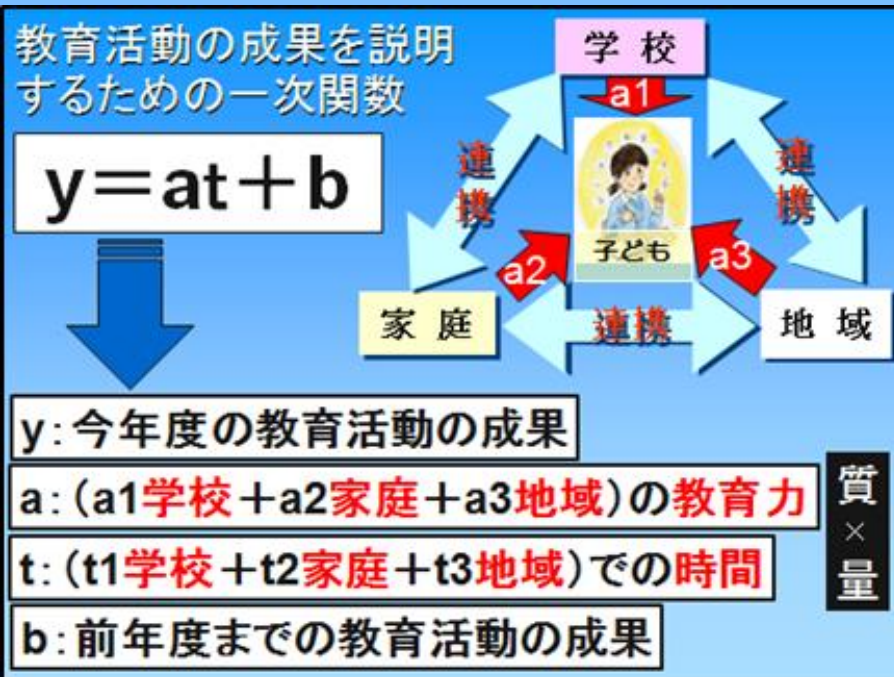
(学校内の授業改善、補充指導の充実、学習の仕方の習得、家庭での宅習の習慣化など)

②基本的な生活習慣の確立

(早寝早起き朝ごはんによる規則正しい生活リズムの確立、電子機器等のルールやきまりづくりなど)

③教育の情報化に伴うデジタル化への対応

(タブレット端末の活用、デジタル通信システムの構築とタイムリーな情報発信等)



新型コロナウイルス感染者数の推移グラフと本校実践の経緯 (R3.4月～R4.12月)

R4.4月～「確かな学力」を育むアナログとデジタルが融合した新たな学習指導の研究開始

R3.4月～『エドテック』
学校と家庭を繋ぐデジタル通信システムの構築(安心安全メール→情報発信、ペーパーレス化、押印レス、メールによる欠席遅刻届、Googleフォームでのアンケート調査等)

8/27 家庭のネット環境調査
8/30 ネット環境あり95.7%

9/1 時差登校、午前授業
午後在宅学習スタート

R3.4月～『教育の情報化』
学校経営方針:近い将来の学校像を示して取り組めることから少しずつ広げていく。
(学校内→学校間→学校と家庭)

9/2 タブレット端末持ち帰りスタート
(4年3組)

R4.1月デジタルドリルの導入と試行的な実践

9/22,29,30
オンライン授業開始(4～6年)

9/22 保護者説明会YouTube配信

11/7 運動会YouTube配信

3/8 半成人式YouTube配信

3/25 卒業式YouTube配信

4/6 入学式YouTube配信

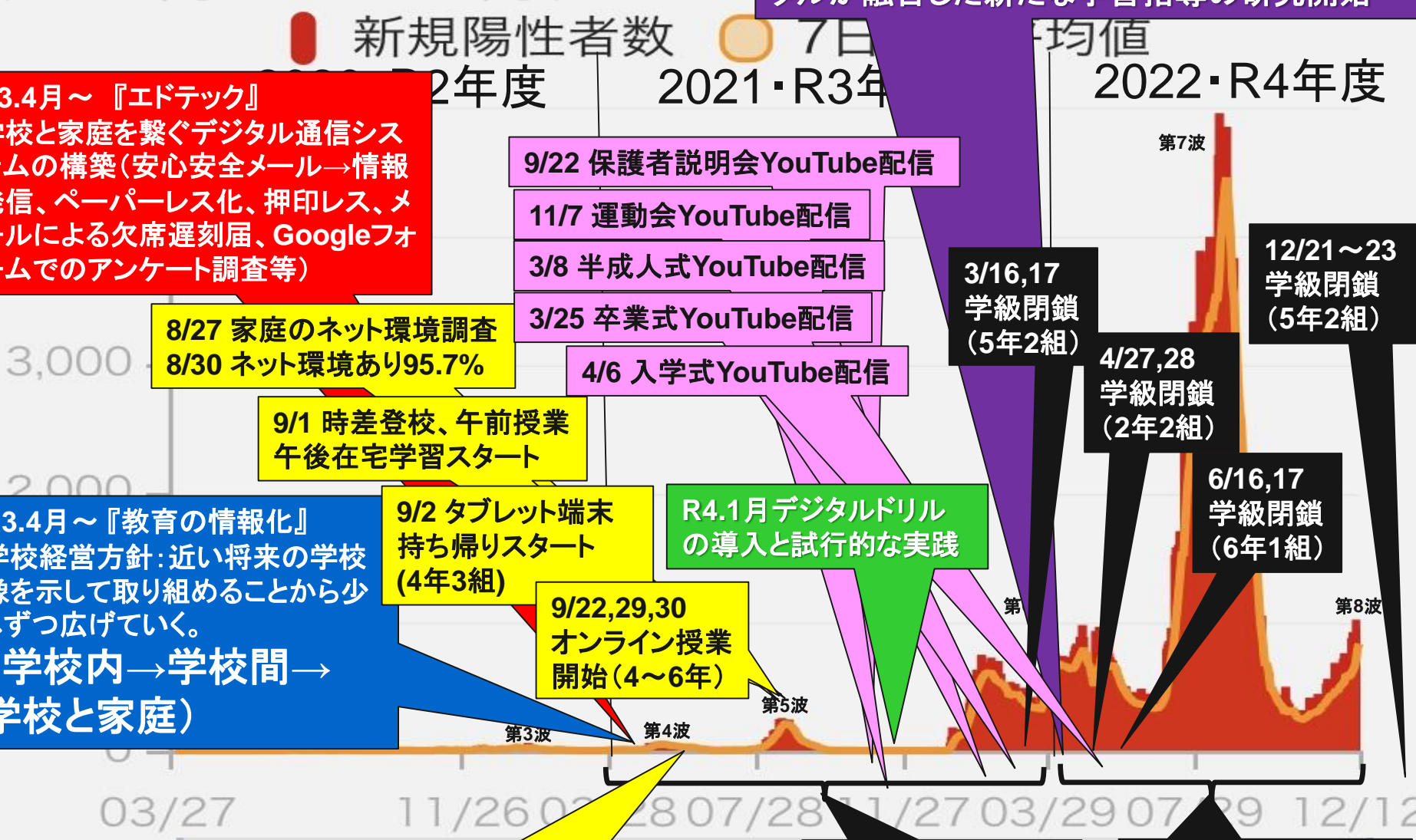
3/16,17
学級閉鎖
(5年2組)

4/27,28
学級閉鎖
(2年2組)

6/16,17
学級閉鎖
(6年1組)

12/21～23
学級閉鎖
(5年2組)

新規陽性者数 7日平均値
2年度 2021・R3年度 2022・R4年度



R3.6月テレビ会議システムでのオンライン児童総会

R3感染者累計16人
全児童の2.5%

R4感染者累計157人
全児童の25.6%

すべての先生がタブレット端末を活用した授業を行えるようにするためにはどうすればよいか？

学校現場の現状、指導する側の実態

教員の大幅な異動があり、全教員の25%超がタブレット端末の未経験者や初心者 **(75%は経験者)**

先生方の主な疑問・不安

Q1: 指導案のどの部分をデジタルによる学習指導で置き換えて授業を行えばよいのか？

Q2: そもそも従来のアナログ型の授業をどのようにして改善したらよいか？

Q3: タブレット端末を活用した授業をどのような手順で具現化していけばよいか？



←その疑問の答えが集約されている

学級間(教員間)格差を解消し学校全体に「教育の情報化」を浸透させるための4つの前提

1 協働的な取組を基本とする校長のリーダーシップ

(学校経営方針への明確な位置づけ、説明責任など)

2 ICT担当教員の育成

(ICT支援員を始めとして接続・設定作業等をサポートする技術スタッフ及び新たな取組を先導する教員)

3 全家庭をカバーするWi-Fi環境の実態把握、整備

(ネット環境調査の実施、本校は全家庭の95.7%でWi-Fi環境あり、モバイルルーターの貸出で対応)

4 実践の共有化を図る職員研修の進め方

(導入期はチームでの実践、やれることから、失敗は成功のヒント など)

「教育の情報化」に伴うデジタル化を学校全体で進めるために教職員に伝えてきたこと

◆ With corona (2021,2022)

「コロナ対応による学びの保障のためにオンライン授業を行う」という大義名分

◆ After corona (2023～)

コロナ禍後の今は、「アナログとデジタルの融合を目指してこれからの新たな学習指導の構築をする」という大義名分

※タブレット端末を活用した学習指導はこれからの教員の必須スキルである。

※教務・校務のデジタル化により業務の効率化と簡素化も進められる。

【研究冊子発行】 2年間の研究の成果をまとめました

アナログとデジタルの学習指導 の融合を目指した 実践記録集(2021・2022)



鹿児島市立星峯西小学校

令和5年4月3日付け南日本新聞に記事掲載

13 地域総合 2023年(令和5年)4月3日 月曜日 南

み
な
み
ネット
kagoshima
local
network
鹿児島
都市圏

身近なニュース、
催し物は報道部
までお知らせく
ださい。

電話
099
813-5137
ファクス
099
813-5177

うぶ声
おこやみ
案内

鹿児島市役所に届け出た
て掲載希望の場合、次の要領
ご連絡ください。掲載無料。

鹿児島市の星峯西小学校
は、同校が2021〜22年
度に行った学校現場での情
報通信技術（ICT）活用
例をまとめた。端末機能や
デジタル教材を使った授業

ICT活用のヒントに

星峯西小が事例集発行



「フウハウを共有し学校間の
格差を解消したい」と話す谷
口源太郎校長（左）と七タ弘
和教諭
＝鹿児島市の星峯西小学校
の進め方、家庭学習で持ち
帰った端末の生かし方など
を具体的に例示。新型コロナ
ナウイルス下で行ったオン
ライン授業にも触れた。同
校関係者は「学校の実情に
応じた取り組みのヒントに
なれば」としている。
同校は、小中学生へデジ
タル端末一人一台配備する
「GIGAスクール構想」
を国が掲げたことを踏ま
え、21年度からICT活用
に注力。紙の教科書や手書
きノートなどを使う従来の
指導とデジタルとの融合を

目指している。
記録集はA4判フルカラ
ー。写真やイラストを多用
し、各事例を分かりやすく
まとめた。同校PTAの支
援を受け150部作成。県
や鹿児島市の教育委員会、
近隣の学校に配布した。同
校ホームページでも内容を
公開している。
ICT担当の七タ弘和教
諭（39）は「研修と実践を重
ねるうち、デジタルに抵抗
感があった教員にも変化が
見られた。互いに質問しや
すい雰囲気になったのも効
果の表れ」。記録集の作成
を企画した谷口源太郎校長
（59）は「学校現場のデジタ
ル対応力向上に役立てて」
と話した。
（小手川美子）

アナログとデジタルの学習指導 の融合を目指した 実践記録集（2021・2022）



鹿児島市立星峯西小学校

令和3, 4年度（2021・2022） 研究実践のまとめ

- ・授業実践事例19
- ・補充指導事例13
- ・家庭学習事例8
- ・コロナ対応のオンライン授業事例30

計70事例

令和5年度(2023) 研究実践のまとめ

「アナログとデジタルの融合を 目指した実践事例集(2023)」

- 指導案、活動場面・板書等付き事例15
- 授業で活かしたい「〇〇」指導事例
- 低学年における実践事例
- 特別支援学級における実践事例
- 補充指導における実践事例
- 家庭学習における実践事例

アナログとデジタルの学習指導の融合 を目指した実践事例集Ⅱ（2023） ～指導案、活用場面、板書等付き～



鹿児島市立星峯西小学校

もくじ

第1章 はじめに

「格差」を解消し、学校全体で推進する教育DXの取組

第2章 教科領域等の授業実践事例

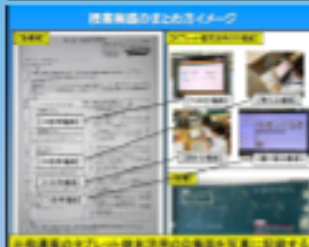
- 1 授業実践事例01～15（指導案、活用場面、板書等付き）
- 2 授業で生かしたタブレット端末の活用「〇〇指導」事例
- 3 低学年期におけるタブレット端末の活用事例
- 4 特別支援学級におけるタブレット端末の活用事例

第3章 補充指導の実践事例

朝学習（ベーシックタイム:毎週火・木曜日:15分間）の事例
土曜授業（パワーアップタイム:第2土曜日:45分間）の事例

第4章 家庭学習の実践事例

家庭学習の課題（家庭学習ノート、タブレット端末の持ち帰り
等）の実践事例



※この資料は、写真、モデル図等を可能な限り多く入れて、授業実践の概要が分かるようにしてあります。
※前半の教科領域等の実践事例は、指導案、活用場面・板書写真、授業者コメント等が見開き2頁にまとめられています。

【指導案の様式について】

※全ての学年・学級でタブレット端末を活用した授業を行うため、タブレット活用に関連する内容等にはDマークを記入しています。

- 1 2本時（1）目標については①学びに向かう力、人間性など情意面②知識・理解・技能、思考・判断・表現を明記している。
- 2 2本時（2）「本時の展開に当たって」には、本時で特に主張したい教師の働きかけを、「（子どもが）～できるようにするために、（教師は）～な手立てを行うようにする。」の文型で具体的に明記している。
- 3 学習過程については、「つかむ→見通す→考える→調べる→深める→まとめる・振り返る」の基本的な学習過程を踏まえている。
- 4 教師の主な働きかけ（O印）には、学習活動に対応させながら指導者が行う様々な手立ての意図や目的を「～するために」の文型で明記している。
- 5 評価規準（※印）には、主な評価規準（何を）、評価方法（どのように）を具体的に記している。

令和5年12月18日付け南日本新聞に記事掲載

広がるICT 変わる授業



「明治初期の日本は、強い国づくりにために、どのような取り組みをしましたか。」11月中旬、桜峰小であった6年社会の授業で、担任の岡藤教諭が児童2人に問いかけた。その授業の「めあて」(学習目標)だ。

「学歴置票や種痘票、徴兵令、地租改正。児童が学習で調べた内容を挙げて、それそれの目的は何だろう」と前置教諭。2人が調べ始めると、教室後方に座る5年生へ移動した。

桜峰小は全校児童約1,500人。6年生は2人ずつの複式学級だ。前置教諭が6年生の発表を聞いていた。5年生は

「予習型」で主体的学び

桜峰小

情報通信技術(ICT)が授業をどう変えつつある。鹿児島市内の小学校でもタブレット端末やデジタル教材の導入が進む。桜峰小では、これらを活用し児童が自律し学ぶ授業を現。業務効率化で教員の長時間勤務解消にもつながるなど、全国の注目を集める。星峯西小は教員間で温度差を解消しようと、活用のノウハウを冊子にまとめ、配布している。



予習から展開していく桜峰小の授業。タブレット端末と黒板の板書などを組み合わせて行われる。＝鹿児島市桜島松浦町

星峯西小(547人)はこのほど、タブレット端末やデジタル教科書を使ったICT活用と、板書など従来の「アナログ」を組み合わせた授業の実践例を冊子にまとめた一写真。低学年から高学年、特別支援学級まで、さまざまな教科や場面でのノウハウを紹介している。学習指導案のほか、実際の授業で端末を使

実践例 冊子に

星峯西小



う様子や板書した黒板の写真なども掲載する。6年生の外国語の授業では、音声の出るデジタル教科書で単語の発音を練習。発表の様子を互いに撮影して助言し合ったり、自分の発表を客観的に振り返ったりした例を紹介した。

同校は2021年度から「教育の情報化」を掲げ、端末を活用した学習指導を研究。今年3月には22年度までの実践記録集を発行した。谷口源太郎校長は「教員によってスキルの差があり、不安もあるだろう。手順書として役に立ててもらえれば」と意図を話す。

23年度版冊子はA4判フルカラー65頁。200部発行し、市内の各小中学校に献本する。

「開連する動画を見て。」5年生のめあては「中土場はどんな王をして物々、明示する」導入で始まり、場は口発表したり問題を出したりする。展開、授業を振り返り、製造しているものを発表。力まかぬ「端末の順に進む」の加減が難しい部品だから職人が作っている」と答えた。ために宿題を出す。一方、桜

峰小は予習型だ。担任が授業分を調べて、考えてから授業に支援システムを使う。課題を配信、児童は自主で端末を使って予習しながら、難しければ質問もできる。終了と担任へ返信して、事前には、なを主体的に求められる。0.22年度の学力、学習状態調査で全国平均を上回る成果も出している。

■校務も効率化

現場のICT活用を支援するため、市は1年度に集った。授業研究は録画して人1人を実現。22年度はA4判フルカラー65頁、着

星峯西小(547人)はこのほど、タブレット端末やデジタル教科書を使ったICT活用と、板書など従来の「アナログ」を組み合わせた授業の実践例を冊子にまとめた一写真。低学年から高学年、特別支援学級まで、さまざまな教科や場面でのノウハウを紹介している。学習指導案のほか、実際の授業で端末を使

実践例 冊子に

星峯西小

う様子や板書した黒板の写真なども掲載する。6年生の外国語の授業では、音声の出るデジタル教科書で単語の発音を練習。発表の様子を互いに撮影して助言し合ったり、自分の発表を客観的に振り返ったりした例を紹介した。



同校は2021年度から「教育の情報化」を掲げ、端末を活用した学習指導を研究。今年3月には22年度までの実践記録集を発行した。谷口源太郎校長は「教員によってスキルの差があり、不安もあるだろう。手順書として役に立ててもらえれば」と意図を話す。

23年度版冊子はA4判フルカラー65頁。200部発行し、市内の各小中学校に献本する。

令和3～5年度 本校職員研修の概要

令和3年度
(2021年)

「教育の情報化」に伴うデジタル化への対応
「確かな学力」を育成するための学習指導
コロナ禍における確実な「学びの保障」実現

令和4年度
(2022年)

↓
「学級間」格差の解消＝教育の機会均等
全ての教員がすべての学年・学級で実践
できる新たな研修スタイルの実現

令和5年度
(2023年)

↓
「アナログとデジタルの学習指導の融合を
目指した新たな学習指導の構築」

「確かな学力」を育むこれからの学習指導の構築
～アナログとデジタルによる学習指導の融合を目指して～

すべての教科領域で情報活用能力を基盤にして育成する

（授業以外）
補充指導

関連

授業改善

付け

家庭学習

関連付け

関連付け

デジタル学習指導（学習者用デジタル教科書、タブレット端末、デジタルドリル、AI教材、ロイロノート、テレビ会議システム等）

アナログ学習指導（紙の教科書、ドリル、教科用ノート、家庭学習ノート等）

学力定着のイメージ(※①②③すべてがそろおう)

つくる

とりだす

①input

③output

新皮質

しまう

旧皮質

②keep

授業改善

問題練習

学校での補充指導(量と質)
+
家庭学習(量と質)



発達段階に応じたアナログとデジタルの配分(目安)

アナログとデジタルのバランス(目安)	【低学年】 1年生 2年生	【中学年】 3年生 4年生	【高学年】 5年生 6年生
デジタル学習指導	2	4 6	8
アナログ学習指導	8	6 4	2
タブレット端末の活用程度 ・ 家庭への持ち帰り	学校で慣れ 親しみ・使う 家庭への持ち帰り不可		学校・家庭で 使いこなす 家庭への持ち帰り可

学習場面におけるアナログとデジタルの使い分け方

教師は、子どもの学習状況からアナログとデジタルによる学習指導の使い分け方を判断する

指導方法 学習場面	アナログによる 学習指導	デジタルによる 学習指導	児童生徒の 学習状況 (基礎基本の定着 度、活動内容等)	
授業 補充指導 家庭学習	基礎基本の定着	選択・順序・ 組合せ方	定着の確認、習熟	C: 不十分 B: 概ね良好 A: 良好 学習対象の把握 見学観察鑑賞等
	基礎基本の定着	選択・順序・ 組合せ方	定着の確認、習熟	C: 不十分 B: 概ね良好 A: 良好 学習対象の把握 見学観察鑑賞等
	基礎基本の定着	選択・順序・ 組合せ方	定着の確認、習熟	C: 不十分 B: 概ね良好 A: 良好 学習対象の把握 見学観察鑑賞等

順序性・組み合わせ方

タブレット端末を活用した基本的な授業モデル

授業：学習場面に応じたICT活用事例（文科省資料）

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子どもたちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1：教員による教材の提示

A2：教員と子ども全員によるまとめ

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1：個に応じる学習

B2：調査活動

B3：表現・制作

B4：家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子ども同士による意見交換、発表などお互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1：発表や話し合い

C2：協働での意見整理

C3：協働制作

C4：学校の壁を越えた学習

①デジタルドリルを活用する際は、その内容や使用場面を十分検討する（授業の一部、自宅等での学習等）

②子供たちの学習状況を把握し、個別の学習支援につなげるとともに、子供が自ら学習の改善につなげられるようにする

課題解決型学習過程におけるタブレット活用の授業モデル

学習過程

つかむ

見通す

調べる・考える

深める

まとめる

振り返る

学習形態・場面

A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

(B 個別学習)

A 一斉学習

授業づくりでの活用のポイント

A1: 教員による
教材の提示



appleTV等を
活用して大型モニ
ターで提示

B1: 個に応じる学習



B2: 調査活動

B3: 表現・制作

ノート、付箋等をロイロノートで提出

C1: 発表や話し合い

C2: 協働での意見整理



C3: 協働制作

タブレットを使って考えを相互説明

C4: 学校の壁を
越えた学習

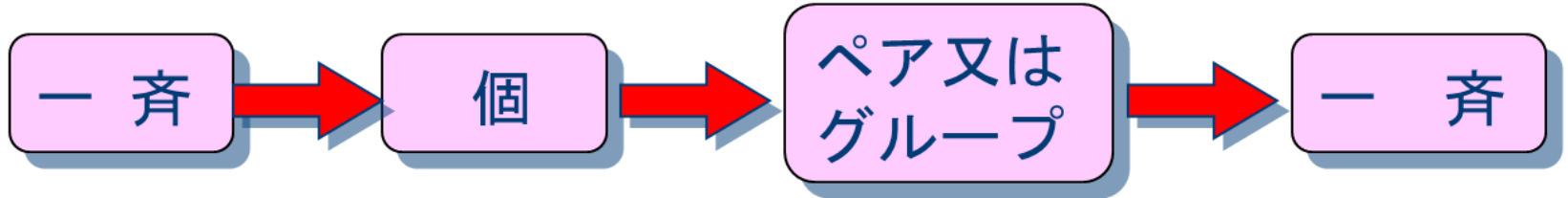


B4: 家庭学習

全体で説明、デジタルドリルで確認

授業における学習過程と学習形態との関係

【学習形態の基本的な展開】



A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

A 一斉学習

【学習過程】

つかむ・見通す

調べる・考える

深める

まとめる・振り返る

主体的・対話的で深い学び

指導案のどの部分にタブレット端末の活用を書き加えたらよいか？

第〇学年 〇〇科学習指導案 ※16ポイントMS 明朝体

〇組 男子〇名、女子〇名、計〇〇名
指導者 〇 〇 〇 〇

1 単元(題材)
2 本時(〇/〇)

(1) 目標
① 関心・意欲・態度など情意面から
② 思考・判断・表現、知識・理解・技能面から

(2) 本時の展開に当たって
* この項には、本時の中での特に主張したい教師の働きかけについて述べる。
子どもが~できるようにするために、(教師は)~このような手立てをする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ 【評価規準】 〇印 ※印
つかむ	1 学習課題に出会う。 目標の明確化		〇 (子どもが) 学習課題に興味・関心をもって取り組めるようにするために、(教師は) 挿絵による問題場面を提示するようにする。 〇 (子どもが) 学習課題を明確につかめるようにするために、(教師は) ~手立てを行うようにする。
	2 学習課題をつかむ。 ☆ 学習問題(めあて)は罫線で囲む。		
見通す	3 解決の見通しをもつ。		〇 すべての子どもが解決の見通しをもてるようにするために、(教師は) ~を例示するようにする。
考える・調べる	4 自分なりの方法で調べる。 山場の工夫		D (子どもが) 自分なりの解決方法で取り組めるようにするために、(教師は) 自分のノートをタブレットカメラで撮影して提出箱に送信するように助言する。 ※(子どもが) ~している。(ノート記述、行動観察) ※評価規準
深める	5 考え方を出し合う、全体で解き方などについて説明し合う。		〇 ※(子どもが) ~している。(観察、挙手、ノート等) ※評価規準
振り返る・まとめる	6 本時の学習をまとめる。 確かな見届け ☆ まとめは二重罫線で囲む。		
生かす	7 教科の特性や内容によって、適用問題に取り組む。		D 本時の学習内容が定着しているかを確認するためにデジタルドリルを活用して把握するようにする。

4 評価 ※上記目標①②に対応して「~できたか。」の文末表現にする。
①

指導過程

学習場面

導入

展開

終末

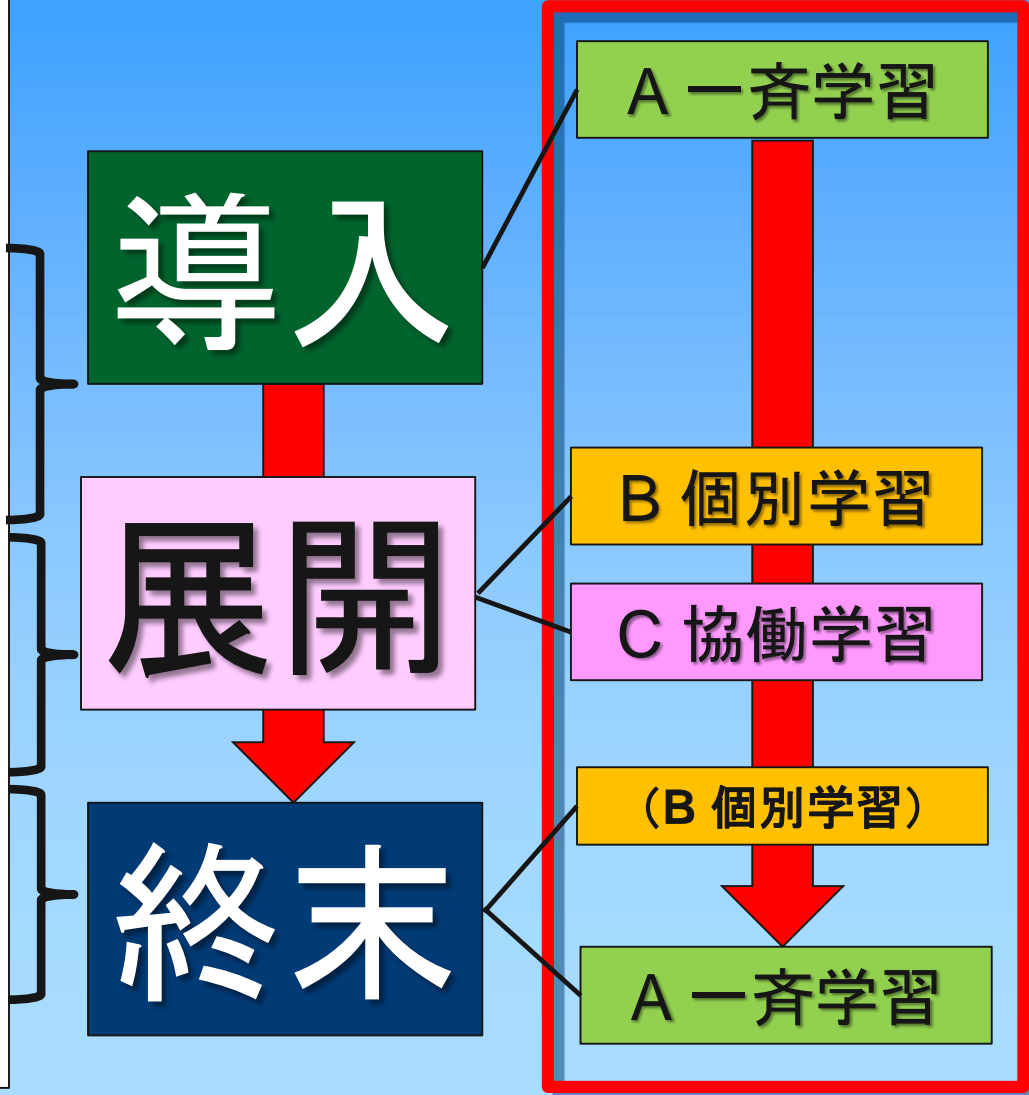
A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

(B 個別学習)

A 一斉学習



学級間格差の解消に向けて教員のタブレット端末の活用をどのような手順で進め広げていくか？

【結論】

- ◆授業モデル、実践事例が身近にあること
- ◆簡単な操作から複雑な操作へ
- ◆短い操作から長い操作へ
- ◆手順①→②→③という流れで授業の導入・展開・終末と関連付けながら実技を伴う職員研修等を進めていく。
- ◆実践をサポートする指導教員がいる

→教育実習生、初任者、現職教員の指導で検証

学級間格差の解消に向けて教員のタブレット端末の活用をどのような手順で進め広げていくか？

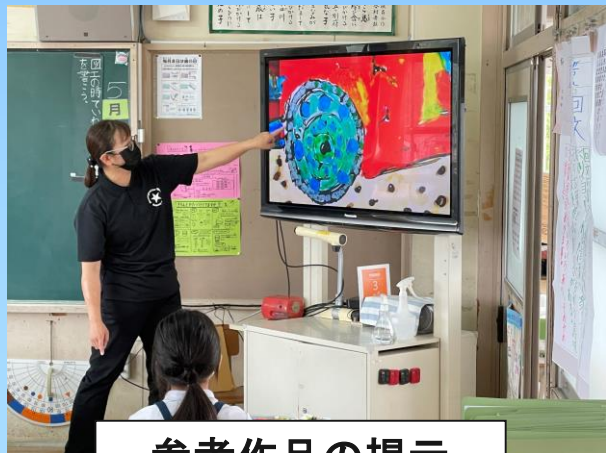
【タブレット端末操作をマスターするための指導手順】

【手順①】→導入部分

教師用タブレット端末のみを使用して大型モニター(または児童用タブレット)に映し出す資料提示

◆絵画や書写の参考作品やアンケート結果の提示などの具体的活用の例示、授業の導入部分で活用できることの理解

※初めてタブレット端末を扱う先生方には、まず教師から児童生徒への一方向の提示①ができるように働きかけていけば良い。



参考作品の提示



動画による筆さばきの提示



アンケート結果の提示

学級間格差の解消に向けて教員のタブレット端末の活用をどのような手順で進め広げていくか？

【手順②】→終末部分

児童生徒が取り組むデジタルドリルなどの活用

◆教師はデジタルドリルの問題内容を確認して児童生徒に指示を出すだけ(補充指導でも活用できる)

◆授業の終末部分で学習したことが定着しているか確認として活用
※教師は授業内容とドリル内容を確認して指示を出すだけで、教師用タブレット端末で結果を集約する。採点の手間が省けること、その分で個別指導ができるメリットを実感できるようにする。



適用指導でのデジタルドリルの活用

学級間格差の解消に向けて教員のタブレット端末の活用をどのような手順で進め広げていくか？

【手順③】→展開部分

授業の展開部分での双方向型での活用(ロイロノートを活用して)

◆教師から児童生徒へ

◆児童生徒間

◆児童生徒から教師へ のデータのやりとりを行う。

※これが最も複雑な操作スキルが必要だが、慣れるとそうでもないことを実感できるようにする。



グループ内での協働的な学び



全体での協働的な学び

【教育実習】6年1組で教育実習生の算数科授業がありました

2023年05月26日



5月26日(金)2校時に6年1組で教育実習生による算数科の研究授業ありました。本校の卒業生で将来教師を目指している大学生です。今週月曜日から3週間の期間、教育実習を行います。様々な教科を参観しながら授業づくりについて勉強しています。教育実習の先生ですが、指導案や板書計画を作り、**タブレット端末を活用して資料提示やデジタルドリルを活用して授業を行っていました。**

【教育実習】5年3組で教育実習生の評価授業 が行われました

2023年06月16日



6月16日(金)1校時に5年3組で教育実習生による学級活動の評価授業が行われました。子どもたちはバランスの取れた食事について調べて日常の食生活に活かす学習をしました。調べたことをお互いにグループや全体で発表し合って深めていきました。教育実習生ですがタブレット端末を活用した資料提示や調べる活動で、ロイロノート(シンキングツール)を活用して授業を進めていました。

【初任研】2年2組で初任研の算数科研究授業 がありました

2023年06月29日



6月28日(水)3校時に2年2組で算数科の研究授業がありました。初任研の一環で行われた研究授業でしたが、タブレット端末(ロイロノート)を活用したとても素晴らしい授業でした。子どもたちが日常的にタブレット端末を活用しており、**ロイロノート(シンキングツール)**を大変スムーズに活用できていました。多くの先生方もタブレット端末を有効に活用した授業を参観に来ていました。

【初任研】4年1組で初任研算数科少人数指導の研究授業がありました

2022年06月28日



6月30日(金)3校時に4年2組で算数科の研究授業がありました。初任研の一環で行われた研究授業でしたが、**タブレット端末(ロイロノート)**を活用したとても素晴らしい授業でした。子どもたちが日常的にタブレット端末を活用しており、ロイロノートを大変スムーズに活用できていました。多くの先生方もタブレット端末を有効に活用した授業を参観に来ていました。**終末時のデジタルドリルの活用**

終